



新潟シティマラソン4年ぶりに開催!!  
ユニバーサルランも初開催!

新潟市議会議員 荒井宏幸通信

# 市政報告

2022年 秋

第11号

電話・FAX  
025-286-2535

## 目次

### 表 面

- 地域経済 再建へ
- 令和4年6月定例会
- 一般質問要旨（抜粋）
- 観光V字回復に向けた取り組みについて
- 地域防災について

### 裏 面

#### 視察報告

- 校則も定期テストもない中学校?!
- 「学校の部活動」から「街のブカツ」へ

#### 補正予算

悩まされてきましたが、このたび10年に1度の交付税の「積雪度級地」見直しで、本市は1級地から2級地に引き上げられたため、これから10年間は毎年10億円の上積みとなり、安定した除雪体制の構築へ大きく前進しました。これは大きな成果です。

オミクロン株対応の二価ワクチン接種も始まっています。第八波を警戒しながらも、日常生活を取り戻せるよう頑張りましょう。



2022年9月1日(木)~11月30日(水)  
佐渡市・新潟市秋の観光キャンペーン 開催中!!

今回の8月4日の豪雨では、東区も被害を受けました。平成10年の豪雨災害以来、1時間50ミリの降雨に対応できるよう計画的に下水道の整備を進めましたが、今回は最大124.5ミリの降雨が記録され、一時的に対応が追いつかなかつた場所や未整備の地域が被害を受けました。引き続き整備を進めますが、ご家庭や事業所向けに雨水浸透ますや貯留タンク、防水板取り付けの補助制度もあり、無料の相談をしてみてください。



あふれそうな本所排水路  
(東区栗山付近)

## 地域経済 再建へ

新潟市議会6月、9月定例会では国の臨時交付金による補正予算が組まれ、コロナ対策に加え物価高に苦しむ経済対策も打ち出されました。そして本市の「地域のお店応援商品券 第4弾」と経済活動を後押しするお得感のある事業が展開されています。

私が昨年12月、本年6月定例会の一般質問で取り上げた2023年G7関係閣僚会合誘致は、財務相会合・中央銀行総裁会議の本市での開催が決まりました。これはサミット（首脳会議）に次ぐ重要な会議と位置付けられており、新潟市が世界に知られる良い機会となります。

さて、本市は数年ごとに、大雪の除排雪費に頭を悩ませてきましたが、このたび10年に1度の交付

税の「積雪度級地」見直しで、本市は1級地から2級地に引き上げられたため、これから10年間は毎年10億円の上積みとなり、安定した除雪体制の構築へ大きく前進しました。これは大きな成果です。

クチン接種も始まっています。第八波を警戒しながらも、日常生活を取り戻せるよう頑張りましょう。

**答弁(中原市長)** 佐渡・新潟の重点販売地域に指定されたことにより、首都圏を中心にPRやセールス活動が展開される。特別な観光列車の運行や旅行商品造成など様々な事業が予定されており、本市でも中央区のまち歩きや西蒲区の循環バスの活用などおもてなしを感じただけるよう準備を進めている。

## 令和4年6月定例会 一般質問要旨について

### 地域防災について

#### 質問(荒井)

コロナで傷ついた経済を観光の力で元気にしたい、経済波及効果を幅広い業種に届けたいという思いから質問に入ります。

訪日観光は、我が国の経済活動や地域の活性化において重要な分野であるが、賑わいを取り戻すにはまだしばらく時間を要する。県民割（ブロック割）から全国旅行支援に変わると、人気の観光地へ多くの人が流れ、近県の観光客まで持つて行かれることもあり得る。そのような激戦の中、本市が国内観光客を獲得するための切り札は、世界遺産国内推薦が決定した佐渡市と佐渡島の玄関口に当たる本市との連携であると考えるが見解を伺う。

**答弁(中原市長)** 誘客連携協定を佐渡市と締結し誘客体制などを強化する。また協定の一環として市内のホテルや旅館などと協力し宿泊の受け皿となるよう取り組んでいく。

**質問(荒井)** このさき佐渡に多くの観光客が訪れ宿泊施設が不足することも想定される。宿泊者の受け入れに本市は力を入れていただきたい。また、JR東日本、佐渡市、新潟市で行う秋のキャンペーンにも期待が高まるが、取り組みについて伺う。

**答弁(中原市長)** 佐渡・新潟の重点販売地域に指定されたことにより、首都圏を中心に行なわれる。特別な観光列車の運行や旅行商品造成など様々な事業が予定されており、本市でも中央区のまち歩きや西蒲区の循環バスの活用などおもてなしを感じただけるよう準備を進めている。

#### 質問(荒井)

高齢化の進展する地域や昼間人口が少ない住宅地等では、日中に発災した場合、支援者の不足が想定される。体力があり、身軽に動ける中学生はとても頼りになる存在となる。地域の防災訓練に小中学生が参加している学校もあり、AEDの講習等も行われている。AEDをまったく触った経験がない人が、いきなり使用する場合には抵抗を感じる人もいると思われる。しかしこのような訓練のおかげで毎年続々とAEDを躊躇なく扱える人材が増えていくことは地域の安心に繋がるであろう。災害対応についても連携できることがあれば、地域の方々はさらに心強く感じると思われるがいかがか。

**答弁(井崎教育長)** 地域の防災訓練に小中学生が参加することは、居住する地域の防災上の特性を学び、地域の一員として災害時に自分たちができることを考える上で有効であると考えている。コミュニティ・スクールの全校導入により、本市では今まで以上に地域と学校との結びつきが強くなっている。双方の協議による防災意識の向上に向けた取組が進むよう引き続き努めていく。

「世界津波の日2022高校生サミットin新潟」（10/19・20朱鷺メッセで開催）にて、国連防災機関長は、東日本大震災の中で、釜石東中学校の防災教育が実を結び、中学生が小学生をさらに高台へ先導し多くの命を津波から救うなどした「釜石の奇跡」について、ビデオメッセージの中で紹介されました。

## 校則も定期テストもない中学校?!

### 世田谷区立桜丘中学校の教育とは

メディアにも取り上げられる有名な学校です。  
とにかくユニーク。スマホ持込みOK。つまらない授業は先生が悪い。  
だからゲームもやっていい。なんだか自由です。

自由と言えば、校則もありません。ただ最低限のミニマムルールはありました。社会と同じ環境を学校内でも学ぶ。なるほど大事なことです。

中間、期末など定期テストもありません。そのかわり小テストがあります。週3回、15分間の朝テストが。これは学習効果が高いという検証結果に基づいて実施しています。新潟市でも、学校の実情に合わせ、全ての定期テストではなく少ない回数でこのような取り組みをおこなう学校もあります。

桜丘中学校では、多様なバックグラウンドを持った生徒一人一人を尊重し、合理的配慮により生徒の学びを支援しています。

いろいろな居場所づくりをされていて、子ども達にとって居心地のいい空間が学校のあちこちに普通にありました。

「ほっとルーム」は、教室には入れないが、学校包括支援員や学校生活センターとコミュニケーションを取り、過ごすことのできる部屋です。

ここなら登校できる生徒も多くいるそうです。

「ヘルプデスク」は、職員室前の廊下にあるスペースです。自習やオンラインでの授業参加、気持ちのクールダウンをしたい時や、先生と話をしたい時に利用します。

桜丘中学校の基本的な理念は、「多様性の尊重」と「インクルーシブの実現」です。明文化した校則はなく、自由な校風だからこそ、個性が育つ土壌があります。自分の個性を大切にすることは、相手の個性も認め、つまり、多様な個を認め、尊重することにつながると考えています。そこに「人権尊重の精神」がたくさん芽吹くのだそうです。

本市にも様々な事情を抱えた子ども達がいます。安心して学べる環境づくりに取り組んでいきたいと思います。

「ほっとルーム」の様子



### 「学校の部活動」から「街のブカツ」へ

#### ～ソシオ成岩スポーツクラブの取り組み～

公立中学校の休日の運動部活動を、地域のスポーツクラブなどに委ねる「地域移行」が来年度から段階的に始まります。受け皿となる運営主体の確保など課題もある中、当クラブは25年前に学校週5日制の導入が決まった時から、部活動の場を学校から地域へ移行することに取り組まれました。その先見性に驚かざるを得ません。

クラブ設立の経緯は、平成7年に成岩地区少年を守る会が「成岩スポーツタウン構想」を提唱したことから始まります。

この構想は、地域の既存の少年チームを総合化し、さらには中学校と連携して部活動の一部を社会体育化して取り込み、小中一貫性のスポーツクラブを立ち上げようというもので、学校週5日制を視野に、学校と地域が連携し、小中学生のスポーツ活動を総合的に支える事業体として平成8年にクラブを設立。

設立当初は、当時の校長の理解のもと成岩中学校の空き教室をクラブハウスとし、学校は週末の部活動を休止し、クラブが土日の活動を希望する子どもたちの受け皿となりました。

平成8年に当時の文部省が打ち出した「総合型地域スポーツモデル事業」の指定を同年9月に受けており、まさに総合型クラブの草分け的存在であります。

その後、平成14年にNPO法人化、平成9年12月にクラブハウスが完

成。このクラブハウスは、学校地域共同利用施設であり、成岩中学校の体育館を兼ねているもので、メインアリーナに加え、スタジオ、テニスコート(多目的用途)のほか、会議室、入浴施設、カフェスペースなど充実した機能を備えており、NPO法人が管理運営を半田市から受託しています。

今後は、総合型スポーツクラブが実施主体となり、地域・学校・行政と連携しつつ、多世代にわたる住民スポーツサービスの一環として充実、発展を図るそうです。当日もヨガ教室が行われていました。

部活動から「街のブカツ」へ、学校施設を拠点とするコミュニティスクール・クラブへと。

今回は未来の部活の姿を見た思いです。



クラブハウス外観 右は中学校のグラウンド



メインアリーナ 中学校の体育館も兼ねる

### 令和4年9月定例会にて 一般会計補正予算が可決されました

**120億9千万円**

**注目される事業の一部**

#### 原油価格・物価高騰対応分

住民税非課税世帯に対する物価高騰対策支援金	13億4,000万円
1世帯あたり15,000円の支援金を支給	
介護保険事業会計繰出金	4億5,300万円
障がい福祉施設等光熱費等高騰対策支援金	1億3,500万円
児童福祉施設等光熱費等高騰対策支援金	3,400万円
地域のお店応援商品券発行事業(第4弾)	12億5,000万円
12,000円分の商品券を10,000円で販売	
地域を支える商店街支援事業	1億1,000万円
再生可能エネルギー導入促進事業	3億円
食料供給向上支援事業	5,000万円
肥料コスト低減支援事業	1億4,300万円
環境保全型農業拡大緊急支援事業	3,000万円

#### 感染拡大防止分

感染症発生動向調査事業	10億1,400万円
感染症入院医療費負担金	1億7,600万円
放課後児童クラブ感染防止対策事業	6,300万円
新型コロナワイルスワクチン接種体制確保事業	39億2,000万円

#### その他補正分

道路・公園・公共施設維持補修事業	4億4,500万円
住宅用再生可能エネルギー導入促進事業	5,500万円
学校改修事業	19億7,000万円
DXサポート事業	1億2,000万円
子ども・子育て支援システム更新事業	3,400万円
G7財務大臣・中央銀行総裁会議開催推進事業	2,400万円

発行者 新潟市議会議員 荒井宏幸

翔政会(総務会長)  
文教経済常任委員会  
広域観光交流促進調査特別委員会  
議会運営委員会

連絡先

〒950-0852 新潟市東区石山3-6-12  
TEL・FAX.025-286-2535  
E-mail:araihiroyuki119@gmail.com

本誌は政務活動費で作成しています。  
みなさんからのご意見、ご質問など  
お寄せ下さい。

所属